

**RICOH  
AUTO  
HALF**

***RICOH***

リコーオートハーフは“どなたにも気楽に写せるカメラ”をモットーに、理研光学の優秀な技術陣により設計され、近代的なオートメーション設備によってつくられた、画期的な自動フィルム巻上げ装置をもつハーフサイズのEEカメラです。

カメラを向けてシャッターボタンを押す。ただそれだけで、ピンボケや露出過不足などの絶対ない素晴らしい写真が思いのまま、しかも、フィルム巻上げ装置はシャッターを切ると、自動的にフィルムを巻上げますから、スナップ撮影には最適、いつもシャッターチャンスをお逃ししません。

外にお出かけのときはいつもお供にどうぞ。



# ● リコーオートハーフの三つの特徴

## 〈1〉 シャッターボタンを押す

それだけで、カメラが自動的に適正露出を決定し、シャッターが切れます。

## 〈2〉 ピントの調節は必要なし

ピンボケは絶対ありません。固定焦点方式で、しかも明るいF 2.8、広角25ミリレンズがついていますから、焦点深度が深く、1.5メートルから無限大の距離まで、どの位置でもハッキリうつります。

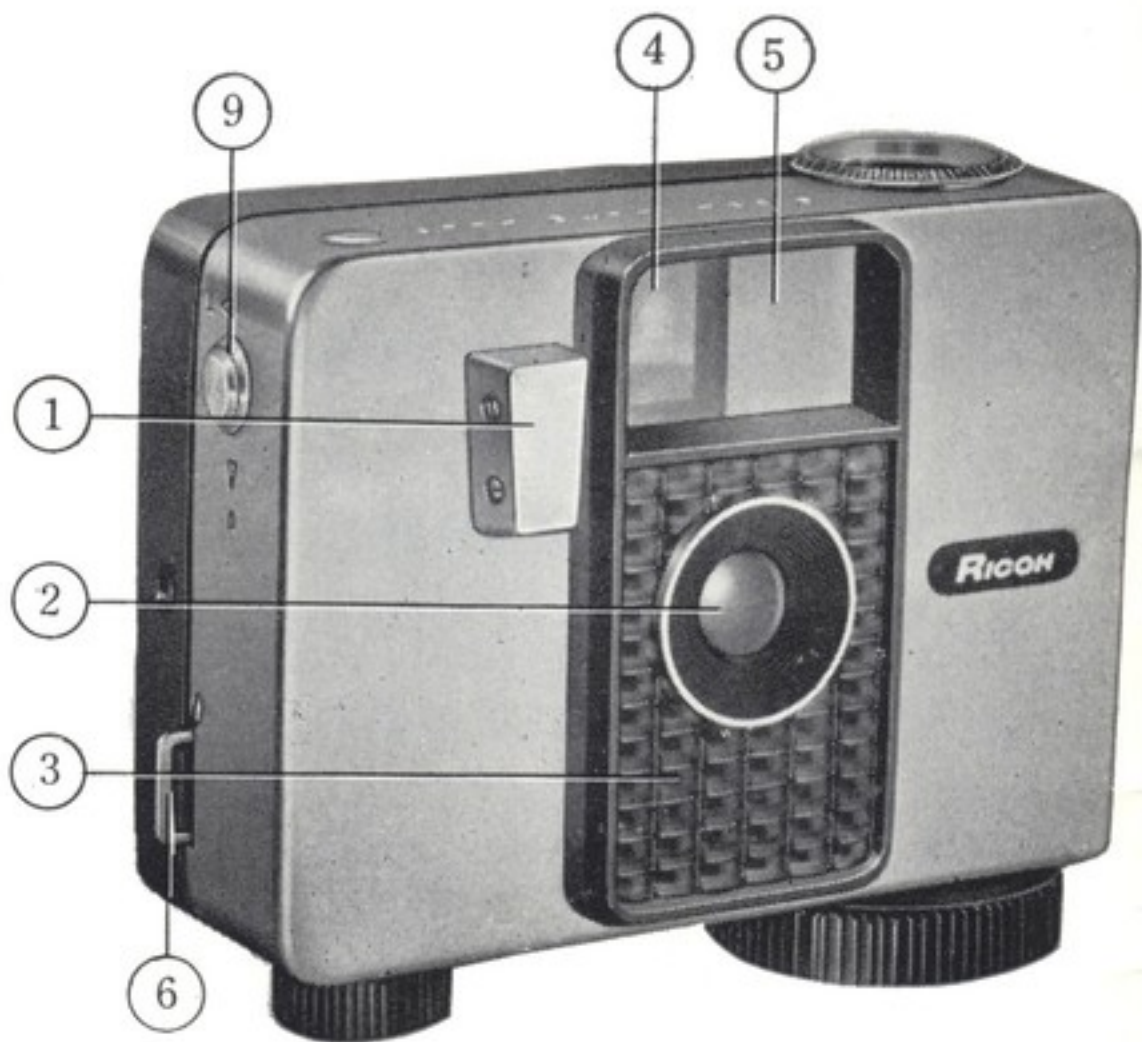
## 〈3〉 フィルムの巻上げも自動

カメラに内蔵のスプリングモーターは、シャッターを切った後、フィルムを自動的に巻上げますから、すぐに次の撮影ができます。スナップやスポーツ写真などの連続撮影のときはとても便利です。

## ● リコーオートハーフの性能

## ● 各部の名称

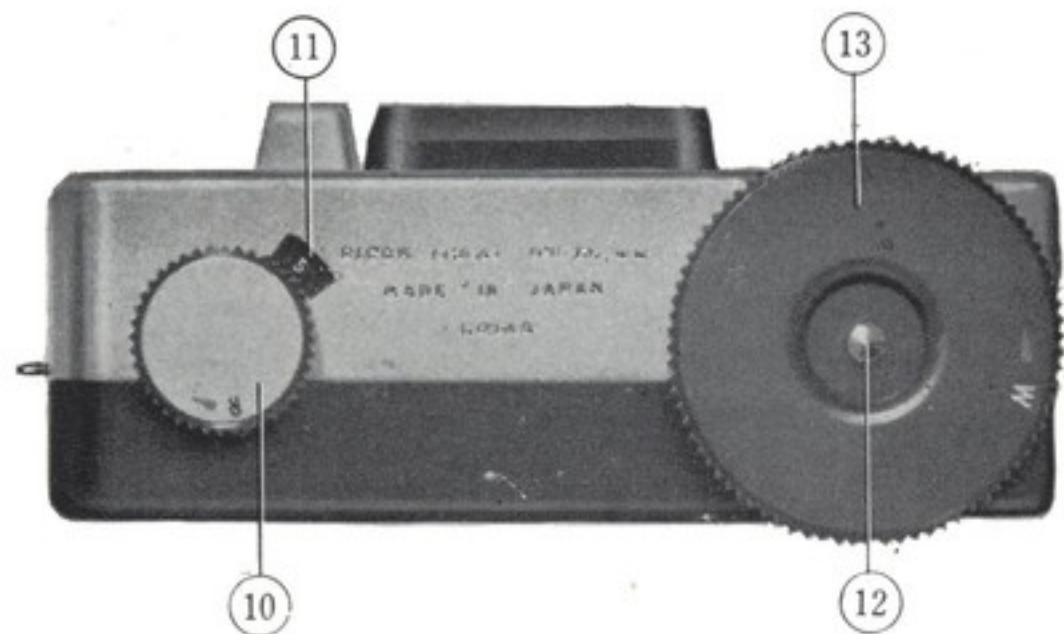
レンズ	リコーF2.8 25mm 3群4枚構成
シャッター	$\frac{1}{25}$ (オートの時) $\frac{1}{30}$ (フラッシュの時) X接点
ファインダー	採光式ブライツフレームファインダー
露出計	完全連動 LV10~16 (ASA100の場合) 適正露光マーク・ファインダー内指示
巻き上げ機構	スプリングモーターによる自動巻き上げ
フィルム枚数計	自動復元式
大きさ・重さ	70.5×90×30.3mm・270g
その他	軽合金ダイカストボディ



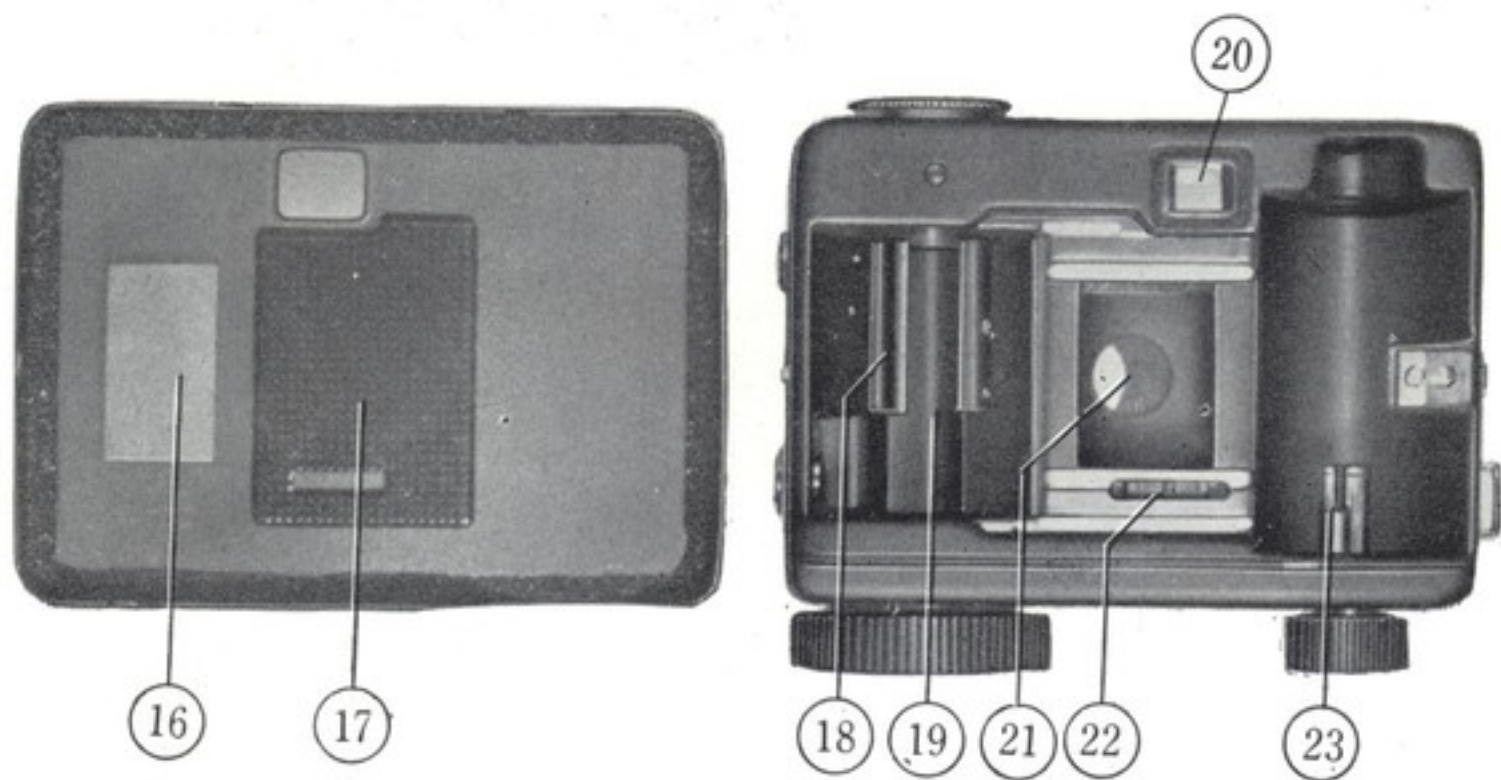
- ① シャッターボタン
- ② 撮影レンズ
- ③ 露出計受光窓
- ④ ファインダー
- ⑤ 明りとり窓
- ⑥ つりひも金具
- ⑦ 絞りマニュアルダイヤル
- ⑧ フィルム感度ダイヤル
- ⑨ 裏蓋開閉ボタン (シャッターレリーズロックボタン兼用)







- ⑩ フィルム巻きもどしノブ
- ⑪ フィルム枚数計
- ⑫ フィルム巻きもどしボタン
- ⑬ スプリング巻上げノブ
- ⑭ 三脚取付けネジ穴
- ⑮ シンクロプラグ



①⑥ パトローネ押え

①⑦ フィルム圧板

①⑧ フィルムはさみバネ

①⑨ フィルム巻取り軸

②⑩ ファインダー接眼レンズ

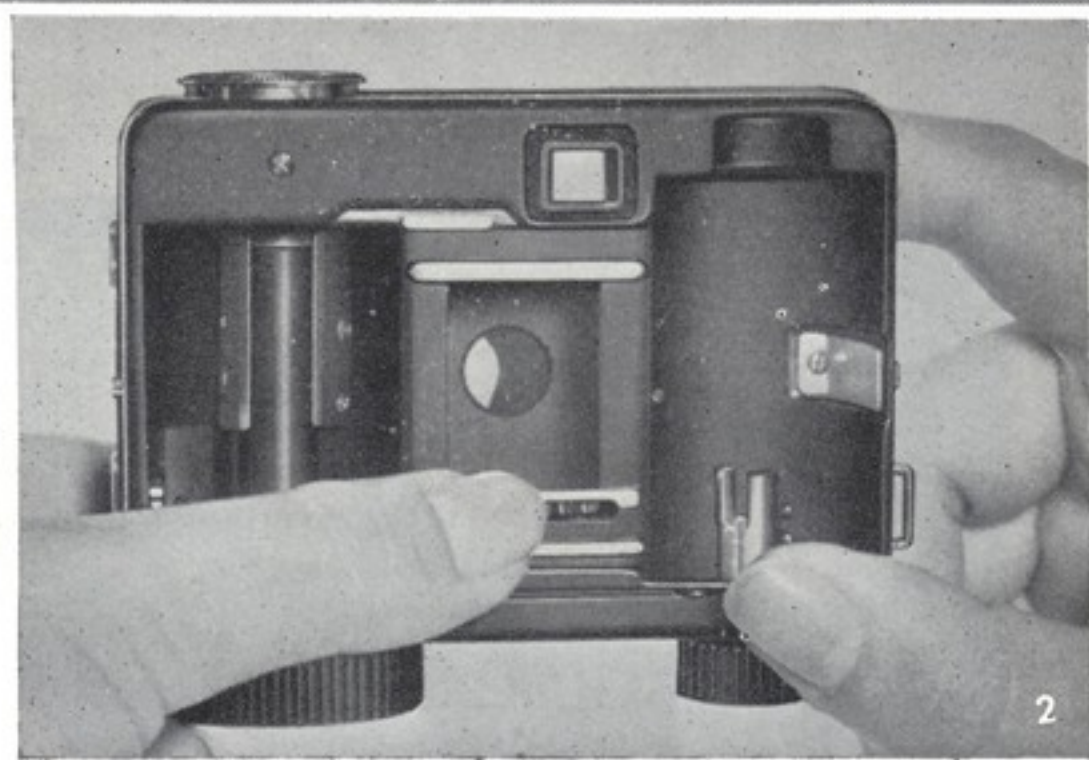
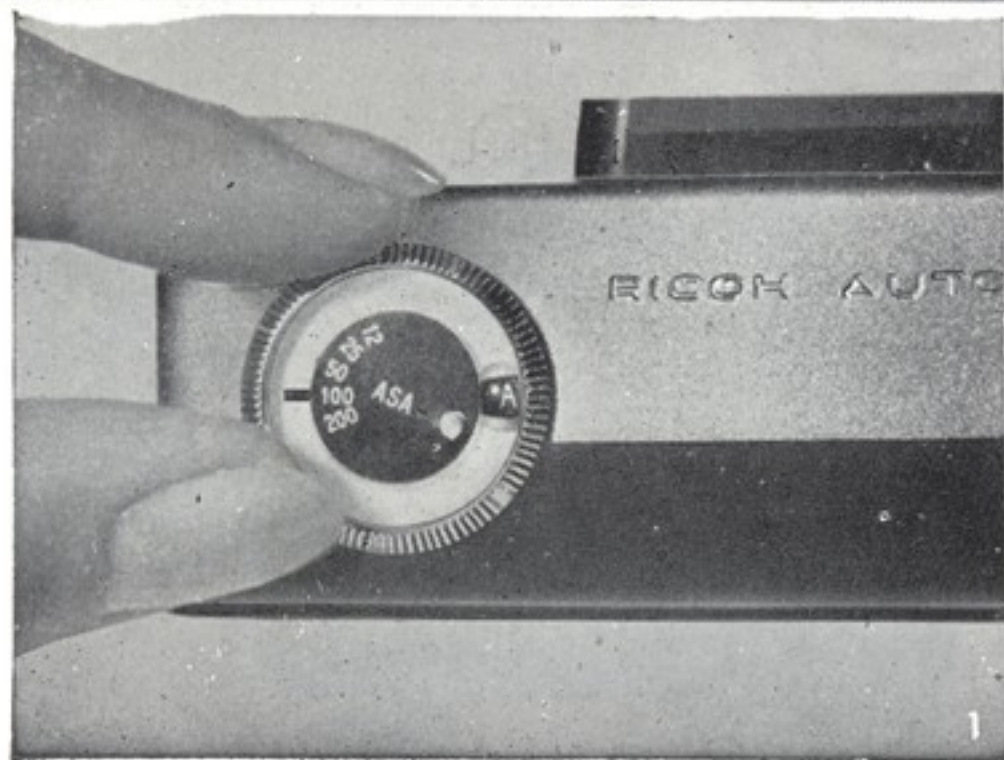
②⑪ シャッター羽根

②⑫ スプロケット

②⑬ パトローネ受軸



## ● 撮影の順序



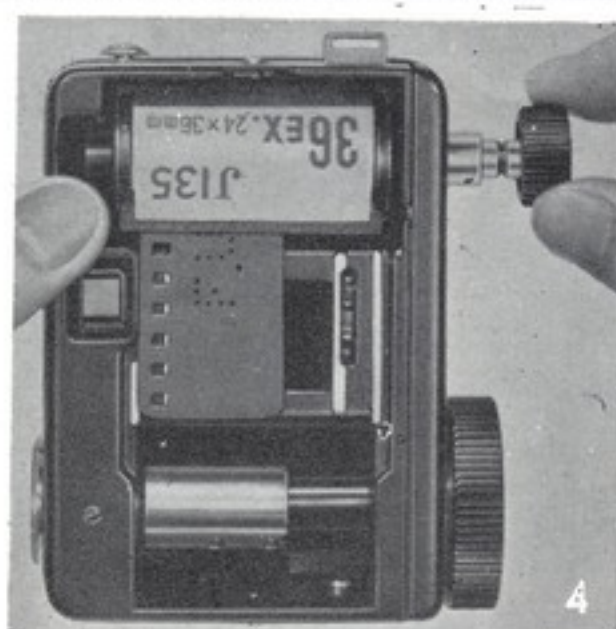
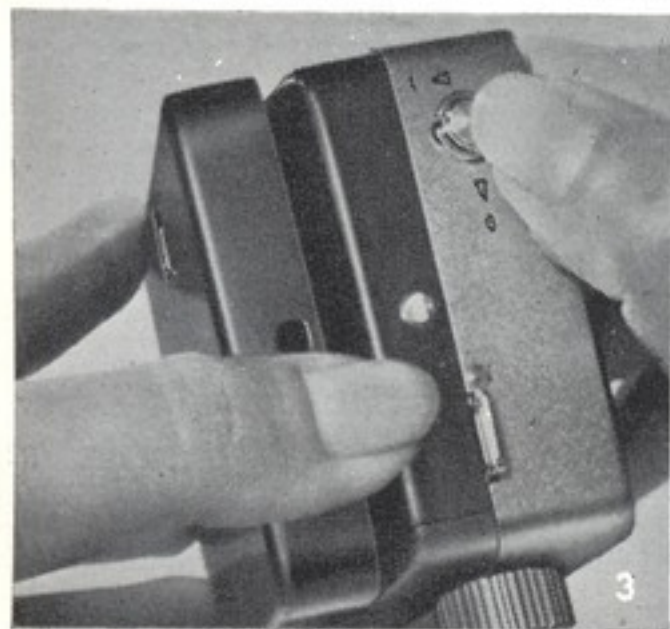
### § 1. フィルムを入れる前に

● 絞りマニュアルダイアルの窓にAの文字をかならず出しておきます(写真1)。Aの文字が出ていれば、カメラは自動的に正しい露出を決めます。

● フィルムを入れていないときは、シャッターは切れませんが、裏蓋を開いてスプロケットを指で左へ止まるまでまわし、シャッターボタンを押せば、シャッターを切ることができます。(写真2)。

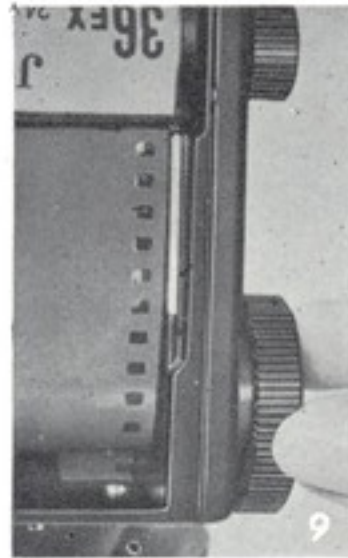
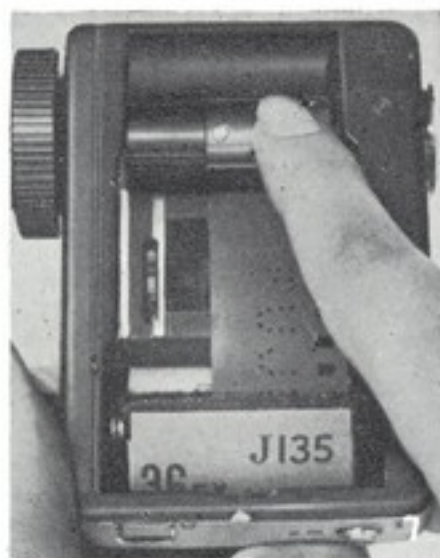
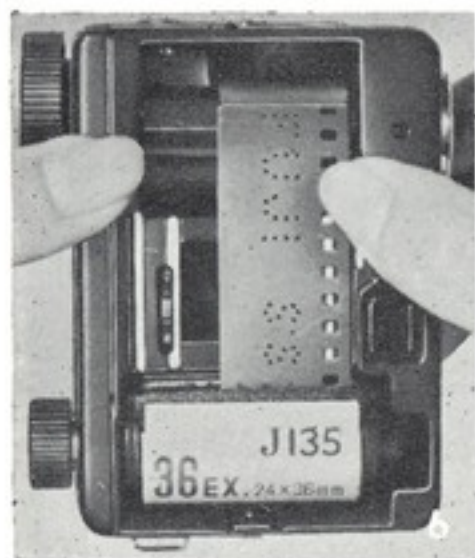
● スプリングが巻かれているかもしれません。一度シャッターボタンを押し、スプリングをゆるめてから、フィルムを入れてください。シャッターボタンが押せないときは、そのままフィルムを入れます。





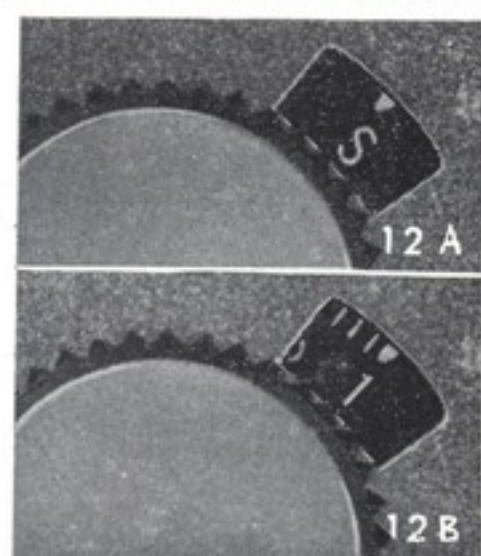
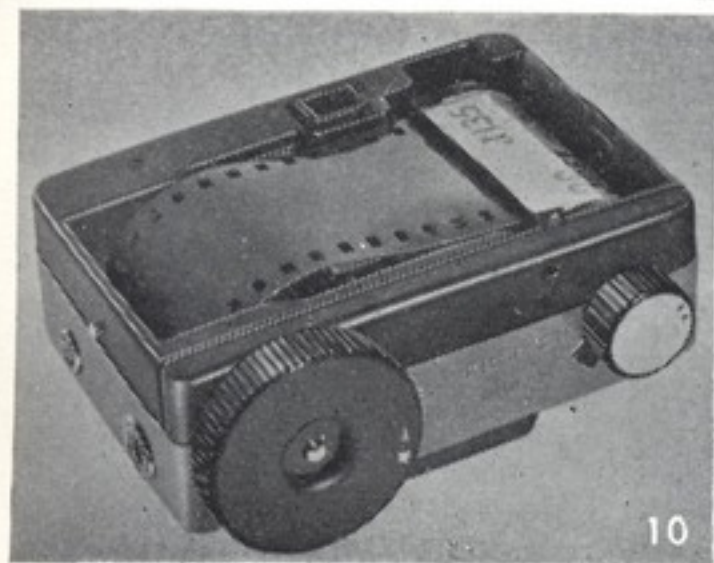
## § 2. フィルムの入れ方

- フィルムを入れるときは直射日光をさけてください。
- 1. 裏蓋開閉ボタンを0の方向へ押しながら、裏蓋を取外します（写真3）。
- 2. フィルム巻きもどしノブを強く引き出して、新しいパトローネ入りのフィルムを入れます（写真4）。
- パトローネのフィルム取出口とカメラのレール面が平行になるように入れて下さい
- 3. パトローネの心棒とパトローネ受軸の溝が合うようにしてノブを押し込みます（写真5）。
- パトローネの心棒とパトローネ受軸の溝が合わずキッチリもどらないときは、ノブを押しながら少し左右にまわしてみてください。



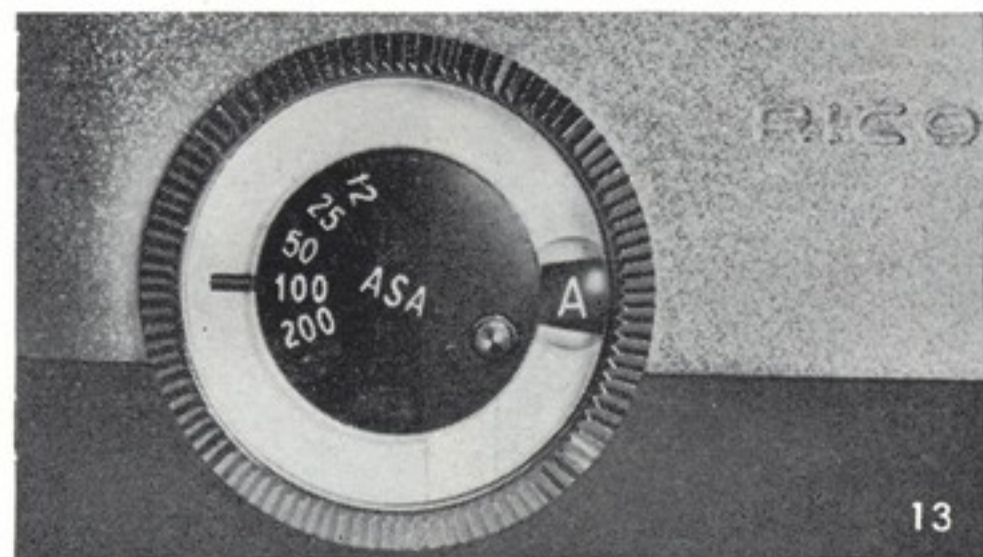
4. フィルムの先端を巻取軸のフィルムはさみバネに1センチほどはさみ込みます(写真6)。巻きもどしボタンを押しながら巻取軸をまわして、フィルムはさみバネを適当な位置へもってくれば、楽にはさめます(写真7)。
  5. スプロケットの爪にフィルムの穴が正しくかかるようにします(写真8)。
  6. 巻上げノブをWの方向にまわして、スプリングを少し巻いてみます(写真9)。
- スプロケットの爪にフィルムの穴が正しくかかっていないと(写真10)巻上げが止まらなくなります。このときは、スプロケットを指でフィルムの巻取方向にまわせば止まります。





7. フィルムが正しく巻上げられていることを確かめてから、裏蓋を閉めます。  
(写真11A, 11B)

- 裏蓋開閉ボタンが下がっているときは、上にもどして、キッチリ閉めてください。
  - 裏蓋を閉じてからフィルムの巻上げ状態を確認するには、フィルム巻きもどしノブを見てください。フィルムが巻上げられるとき、巻きもどしノブが回転すれば、正しく巻上げられている証拠です。
8. 巻上ノブをWの方向に止まるまでまわします。スプリングを一杯に巻上げるとフィルムによって多少違いますが約15枚以上は続けて撮影できます。
9. このときフィルム枚数計はSを指しています(写真12A)。フィルムのはじめの4～5枚は、すでに感光している危険がありますから、枚数計が1を指す(写真12B)までシャッターを切ってフィルムを巻上げてください。



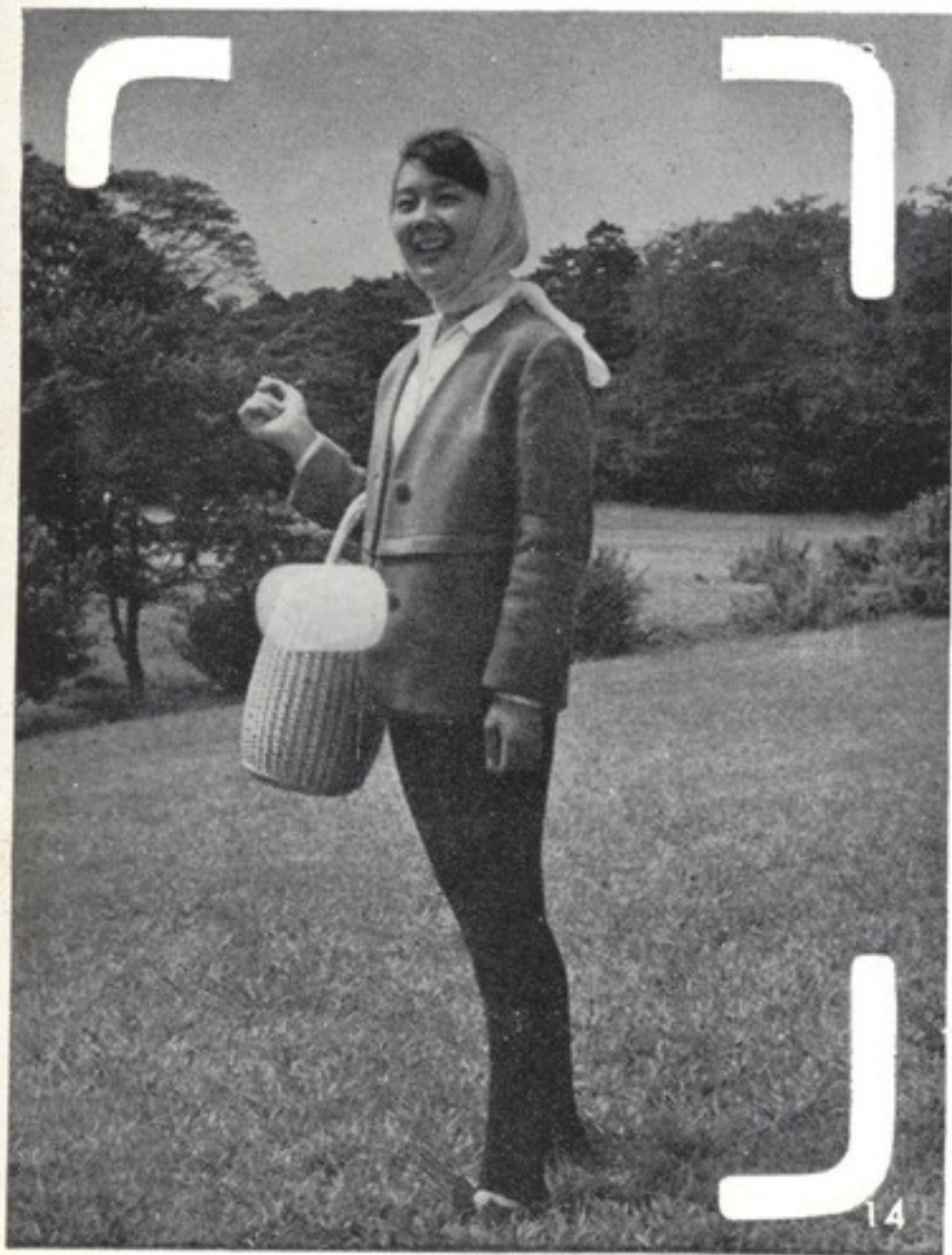
### § 3. フィルム感度ダイヤルについて

フィルムには感光度の早いものや遅いものがありますから、フィルム感度ダイヤルをまわして、使うフィルムの感光度数値を合わせます。

たとえばSSフィルムの場合、ASA(感光度)は100ですから、フィルム感度ダイヤルを100に合わせます(写真13)。

- フィルム感度ダイヤルはASA(感光度)数値12~200の間だけしかまわりません。無理にまわさないようにしてください。
- 絞りマニュアルダイヤルの窓にAの文字が出ているかどうかもう一度確かめてください。これで撮影の用意はできました。あとはファインダーをのぞいて、シャッターを切るだけです。





#### § 4. ファインダーの見方

ファインダーをのぞくと視界に金色の四角い枠が浮き出して見えます。この金色の枠の中が写る範囲です。写そうとするもの(被写体)がうまくこの中におさまるように構図を決めてください(写真14)。

#### 適正露光マーク

ファインダーの金色の枠の真中に金色の小判形が見えます。これは正しい露出が得られるかどうかを知らせるマークです。金色のマークが見えないときは露出不足になります。こんなときはシャッターを切っても良い写真はできませんからフラッシュ撮影をするか、照明で明るくしてください。

写真15A

正しい露出

写真15B

露出不足になる



### § 5. ピントの合わせ方は？

必要ありません。このカメラはピント合わせのいらぬ固定焦点方式で、しかも焦点距離25ミリの広角レンズ付きですから、1.5メートルから無限大の距離までどの位置でもハッキリうつります。

### § 6. シャッターを切る

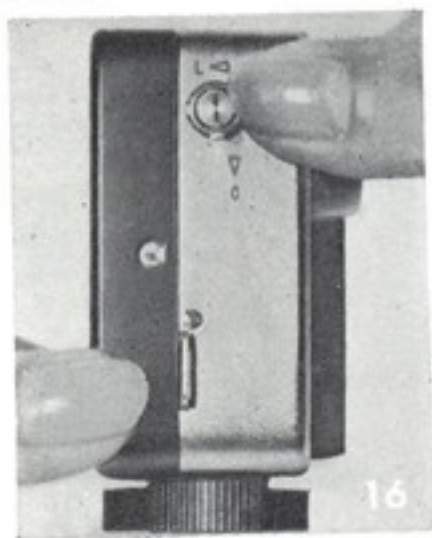
1. カメラを動かさないようにしっかりかまえて、静かにシャッターボタンが止まるまで押します。
2. シャッターボタンを押した指をはなすとジーッと音がしてフィルムが一枚巻上げられます。





## § 7. シャッターボタンが押せないとき

- ジーッと音がして、フィルムが巻上げられている間はシャッターボタンは押せないようになっています。
- スプリングがゆるんで、フィルムが巻上げられなくなったときも、シャッターボタンは押せなくなります。このときは無理に押さないで、スプリングを巻上げてください。
- フィルムが全部写し終わりますとシャッターボタンは押せなくなります（フィルム枚数計を見てください。）
- スプリングが十分に巻上げられているのにシャッターボタンが押せないときは、裏蓋開閉ボタンを見てください。ボタンがLの方向に押されていると、シャッターはロック（固定）されて押せませんから、もとへもどしておきます。くわしくは次のページをごらんください。



### § 8. シャッターボタンロック装置

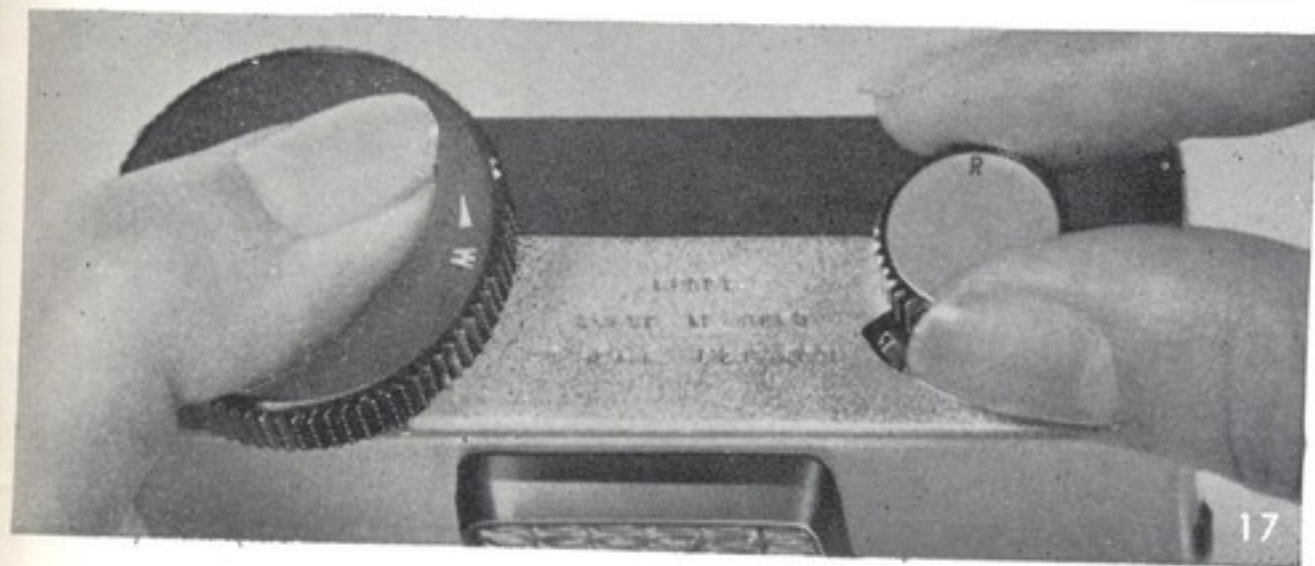
フィルムを入れたままでカメラをもち歩くときは裏蓋開閉ボタンをLの方向へ押して（写真16）、シャッターボタンが動かないようにしておく及安全です。

### § 9. 写し終わったら

フィルム枚数計に注意して、全部写し終わったら次の順序でフィルムをパトローネの中に巻きもどします。

1. 巻きもどしボタンを押します。巻きもどしボタンが固いことがあります。かまわず強く押してください。このときジーンと音がしてスプリングがほどけます。この音はフィルムを巻きもどしている音ではなく、カメラを使わないときはいつもスプリングをゆる

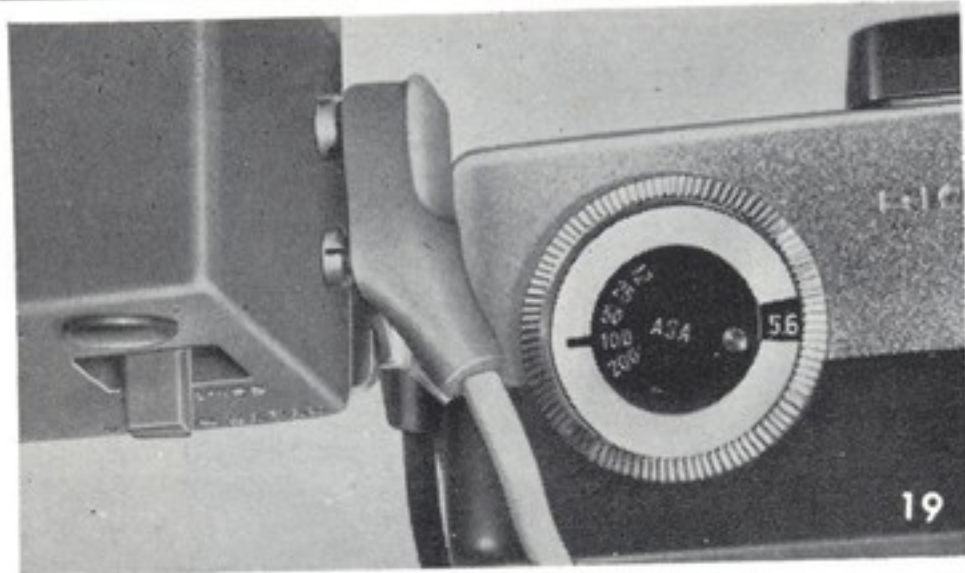
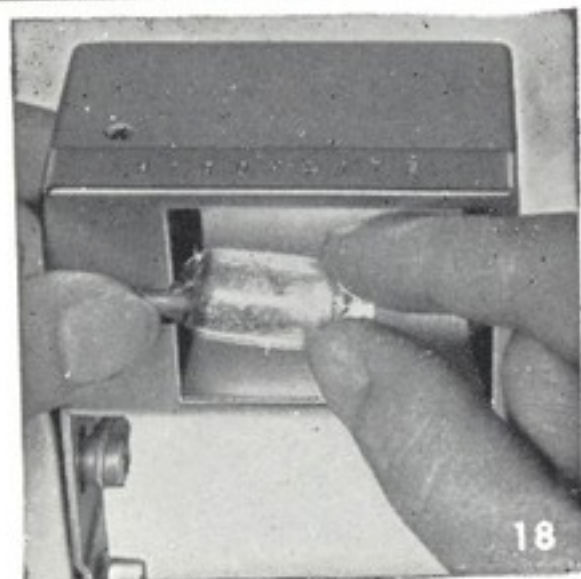




めておくための安全装置です。

2. 巻きもどしボタンを押しながら、巻きもどしノブをRの方向へまわしてフィルムを巻きもどします(写真17)。
  3. フィルムが全部パトローネの中に巻きもどされるとノブが急に軽くなります。そこで裏蓋を開き、ノブを引出してパトローネを取出します。このときも入れるときと同様に直射日光をさけてください。
- フィルムを巻きもどしているときはシャッターボタンを押しなさいでください。
  - 巻きもどしボタンを押ししてもスプリングがほどけないときは、パトローネを取出したあと指でスプロケットを左へ止まるまでまわしてシャッターボタンを押ししてください。

## ●フラッシュ撮影



夜間や室内などの暗い所ではファインダーに金色の小判形が見えません。このままシャッターを切っても露出不足で良い写真は写せませんから、こんなときにはフラッシュ撮影をしてください。

フラッシュ撮影で絞りを調節するときは、シャッタースピードがいつも自動的に $\frac{1}{30}$ 秒にセッットされます。あとは撮影距離に応じて絞りを調節するだけで露出が決まりますから、簡単にフラッシュ撮影がたのしめます。しかもシャッターはX接点なので、M級フラッシュ電球、ストロボなどが自由に使用できます。



## ガイドナンバー露出表

シャッタースピード	フィルム感度ASA メートル (フィート)		
	ASA50	ASA100	ASA200
秒			
1/50秒まで	26(87)	38(123)	53(173)

注) ガイドナンバーはフラッシュ電球によって違います。

### フラッシュ撮影の方法

1. フラッシュガンをカメラに取付けます。取付けるときは、専用のフラッシュユニットアダプターをご利用ください。カメラのシンクロプラグとガンのターミナルを接続してからフラッシュ電球を用意します(写真18)。
2. 使用するフィルムの感光度とシャッタースピード1/30秒(オートハーフはフラッシュ撮影のとき、いつも自動的にシャッタースピードは1/30秒にセットされます。)に応じた使用フラッシュ電球のガイドナンバーを読んで、その数字を被写体との距離で割って適正絞りを算出します。  
たとえば、SSフィルムを使う場合はASA(感光度)100で、シャッタースピードは1/30秒に対するガイドナンバーを求めます。(使用フラッシュ電球の箱を見てください。)もし、メートルで38になれば(上の表をごらんください)7メートル先の被写体を写す場合、  
ガイドナンバー÷距離=絞り数字 の式から絞りは 5.6となります。
3. 絞りマニュアルダイヤルをまわして絞り数字を合わせます(写真19)。あとはただシャッターボタンを押せばフラッシュ電球が発光してシャッターが切れます。

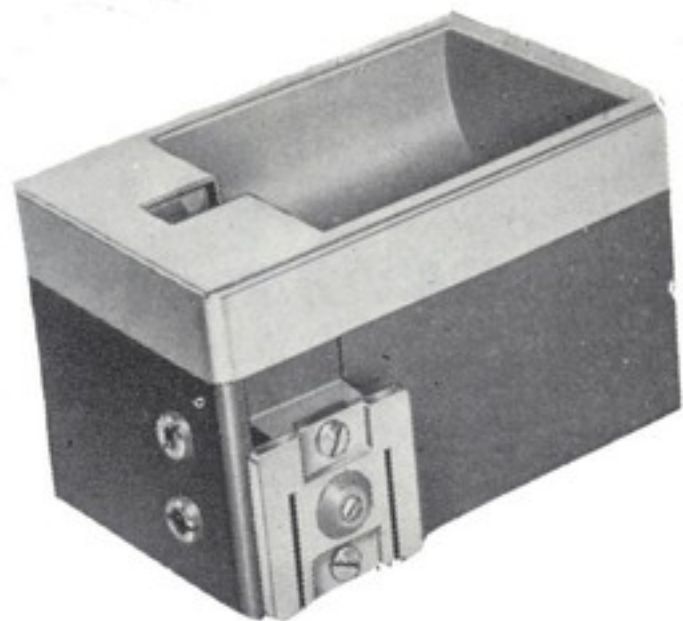
# アクセサリーについて

撮影の範囲をひろげ、撮影をより効果的にするため、理研光学ではつぎのような附属品をとりそろえてありますから、ぜひご利用ください。

## 1 リコーフラッシュガン

フラッシュガンにはいろいろの種類がありますが、リコーオートハーフにはリコーライトガンをお使いください。

リコーライトガン      ¥ 1,200



## 2 (オートハーフ専用)

フラッシュユニットアダプター

¥ 200





### 3 リコーフィルター (はめこみ式)

UV・Sフィルター                      ¥ 800

紫外線を吸収するので遠景をあざやかに写すことが出来ます。よけいな青味をのぞくはたらきをしますから、黑白フィルムばかりでなくカラーフィルムにも常時使用出来ます。またレンズの表面を保護する目的にも利用されます。

Y<sub>2</sub>フィルター                              ¥ 800

赤や黄の感色度を高め、青色光を吸収しますから青空は暗く、白い雲や山肌がクッキリと浮び上って写ります。又人物撮影では顔を明るく描写します。

オートハーフの露出計受光部はレンズの周囲についていますから、フィルターを付けた時でも露出は自動的に調整されます。



## ●カメラの手入と保存

カメラは精密な機械ですから、常にていねいに取扱い、手入れは十分に行なってください。

1. レンズの清掃はとくに気をつけてください。レンズ刷毛で軽く払い、指紋などのついているときは、やわらかいサラシ木綿かガーゼに少量のアルコールをつけて中心部からうずまきを描くようにして軽くふいておきましょう。
2. 海岸や雨日に使ったときは、乾いたやわらかい布で、とくに金属の部分をよくふいておいてください。
3. レンズと露出計受光窓を保護するために、写さないときはいつもレンズキャップをかぶせておきましょう。
4. 磁石はもちろんラジオやテレビなど磁気のあるもののそばに、カメラを置かないようにご注意ください。
5. カメラを保存するときは、皮ケースから取り出し、カメラだけをシリカゲル（乾燥剤）の袋と一しょにボール箱に入れて、湿気がなく直射日光の当たらない場所にしまってください。
6. カメラを使わないときはいつもスプリングをゆるめておいてください。



# サービスセンター

リコー社 = アイセル  
593 4957 (キセル)  
8054-59

東京都中央区銀座4-5  
TEL (535) 6111 (大代表)

## 日立営業所

日立市助川町2757  
TEL (日立2局) 2350

## 千葉営業所

千葉市通町19  
TEL (千葉2局) 4238・6845

## 前橋営業所

前橋市本町9-1  
TEL (前橋2局) 4636

札幌市南1条西6-18  
TEL (札幌6局) 9381~4

## 旭川営業所

旭川市宮下通8-1962アサヒビル  
TEL (旭川) 6141

仙台市外記丁12  
TEL (仙台2局) 6358・3358  
(仙台5局) 0348・0349

新潟市東堀通6番丁1036  
TEL (新潟3局) 2336・5419

## 富山営業所

富山市桜町763  
TEL (富山2局) 6963・1626

川崎市砂子1-53 (桑山ビル内)  
TEL (川崎3局) 7796・7496

## 横浜営業所

横浜市神奈川区神奈川通3-71  
TEL (横浜44局) 4622・6956

静岡市東鷹匠町84 (静和ビル)  
TEL (静岡2局) 2724・0339  
9060

## 沼津営業所

沼津市上土字上横橋122  
TEL (沼津2局) 6186

名古屋市中区西瓦町53  
TEL (名古屋24局) 4346 (代表)

## 四日市営業所

四日市市西新地3-455  
TEL (四日市2局) 6975

大阪市東区南久太郎町2-22  
TEL (大阪271局) 7236 (代表)  
(大阪261局) 0445・9627  
5929・7565

## 京都営業所

京都市下京区河原町通正面下ル  
TEL (京都37局) 4013・2829

## 神戸営業所

神戸市葺合区小野柄通4-2-5  
(振興ビル1階)  
TEL (神戸22局) 8941 (代表)  
5025

## 岡山営業所

岡山市平野町1  
TEL (岡山3局) 1596

## 高松営業所

高松市天神前119-2 (村瀬ビル内)  
TEL (高松3局) 7195・7196

広島市柳町24市  
TEL (広島4局) 4950・9936  
9843

## 徳山営業所

徳山市新町1-47  
TEL (徳山) 1017

福岡市東中洲210-1 (花の関ビル)  
TEL (福岡3局) 8731 (代表)

## 小倉営業所

小倉市浅野町2-43  
(小倉ステーションビル内)  
TEL (小倉52局) 5031・6990

## 長崎営業所

長崎市今魚町53  
TEL (長崎2局) 1490

**RICOH CO., LTD.**

